

# 栃木県立図書館運営評価（令和6（2024）年度）

## 1 運営評価について

栃木県立図書館では、図書館法及び文部科学省「図書館の設置及び運営上の望ましい基準」に規定された公共図書館の運営状況に関する自己評価として、より客観的な視点からサービスの充実を図るため、平成25（2013）年度から栃木県立図書館運営評価を導入している。

- ・平成23（2011）年度 「栃木県立図書館あり方検討委員会」設置  
「とちぎの知の拠点」として目指すべき姿を提示
- ・平成24（2012）年度 文部科学省「図書館の設置及び運営上の望ましい基準」改正告示  
運営状況に関する自己評価実施などに関する規定整備
- ・平成25（2013）年度 栃木県立図書館運営評価導入
- ・平成30（2018）年度 評価指標の改定
- ・令和6（2024）年度 各評価指標の基準値年次を見直し  
一定の成果を得たもの及び社会情勢の変化により指標値の取得方法に変更を要するものについて指標を改定

## 2 根拠法令

### 【図書館法】

#### （運営の状況に関する評価等）

第7条の3 図書館は、当該図書館の運営の状況について評価を行うとともに、その結果に基づき図書館の運営の改善を図るため必要な措置を講ずるよう努めなければならない。

### 【図書館の設置及び運営上の望ましい基準】（平成24（2012）年12月19日文部科学省告示第172号）

#### 第二 公立図書館

##### 一 市町村立図書館

###### 1 管理運営

###### （一）基本的運営方針及び事業計画

- 1 市町村立図書館は、その設置の目的を踏まえ、社会の変化や地域の実情に応じ、当該図書館の事業の実施等に関する基本的な運営の方針（以下「基本的運営方針」という。）を策定し、公表するよう努めるものとする。
- 2 市町村立図書館は、基本的運営方針を踏まえ、図書館サービスその他図書館の運営に関する適切な指標を選定し、これらに係る目標を設定するとともに、事業年度ごとに、当該事業年度の事業計画を策定し、公表するよう努めるものとする。
- 3 市町村立図書館は、基本的運営方針並びに前項の指標、目標及び事業計画の策定に当たっては、利用者及び住民の要望並びに社会の要請に十分留意するものとする。

###### （二）運営の状況に関する点検及び評価等

- 1 市町村立図書館は、基本的運営方針に基づいた運営がなされることを確保し、その事業の水準の向上を図るため、各年度の図書館サービスその他図書館の運営の状況について、（一）の2の目標及び事業計画の達成状況等に関し自ら点検及び評価を行うよう努めなければならない。

##### 二 都道府県立図書館

###### 6 準用

第二の一に定める市町村立図書館に係る基準は、都道府県立図書館に準用する。

### 3 構成

「栃木県立図書館あり方検討委員会報告書」（平成 24(2012)年 1 月）において「目指すべき姿」とされた 3 つの目標、及び令和 6 (2024)年度経営方針における重点施策を踏まえ、以下の 4 機能について、評価指標を設定する（別紙「体系図」参照）

#### 目指すべき姿[1] “とちぎ”のことなら何でもわかる図書館

重点施策1 知の財産を守り育み、発信する取組の充実

- ① 地域資料情報センター機能の充実

#### 目指すべき姿[2] 県内図書館をリードする中核的図書館

重点施策2 図書館と人と情報をつなぎ、県民ニーズに対応したサービスを展開

- ② 市町立図書館等支援機能の充実
- ③ 読書活動支援機能の充実

#### 目指すべき姿[3] 県民の課題解決のための図書館

重点施策3 知の財産を活用し、県民の課題解決を支援する取組の充実

- ④ 課題解決支援機能の充実

### 4 評価方法と実施サイクル

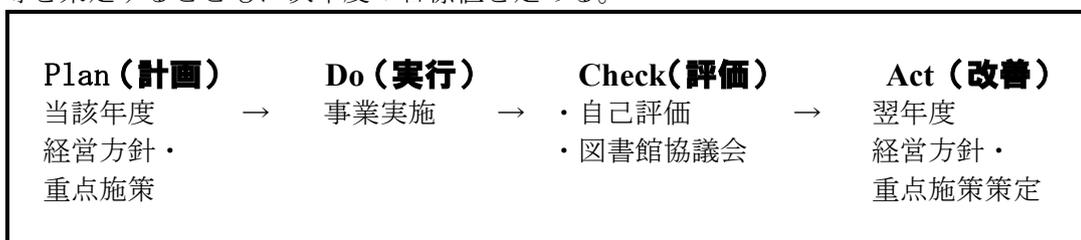
#### (1) 評価方法

各評価指標に対して数値目標を設定し、その達成度を評価する。

数値目標に対する達成率	評価
目標を達成した（100%以上）	A
概ね目標を達成した（80%以上 100%未満）	B
目標をある程度達成した（60%以上 80%未満）	C
目標をあまり達成できなかった（40%以上 60%未満）	D
目標を達成できなかった（40%未満）	E

#### (2) 実施サイクル

各指標に対して自己評価を行い、図書館協議会からの意見を反映しながら次年度の経営方針等を策定するとともに次年度の目標値を定める。



# 栃木県立図書館運営評価の体系図

## 目指すべき姿

～とちぎの“知”の拠点としての更なる飛躍のために～

[1] “とちぎ”のことなら  
何でもわかる図書館

[2] 県内図書館をリードする  
中核的図書館

[3] 県民の課題解決の  
ための図書館

### 【基本理念】

県立図書館は、過去から引き継がれてきた“知”との出会いと、新たに未来へと引き継がれていく“知”の創造の場であり、人と情報、人と人をつなぎ、とちぎの人づくり、地域づくりを支える“知”の拠点である。

## [R6(2024)重点施策]

### 重点施策 1 知の財産を守り育み、発信する取組の充実

#### ① 地域資料情報センター機能の充実

- ・地域資料の網羅的収集
- ・栃木県に関する情報発信

### 重点施策 2 図書館と人と情報をつなぎ、県民ニーズに対応したサービスを展開

#### ② 市町立図書館等支援機能の充実

- ・相互貸借体制、栃木県総合目録システムの充実
- ・市町立図書館等に対するレファレンス支援、職員研修の充実

#### ③ 読書活動支援機能の充実

- ・子どもの読書活動を推進するための、指導者のスキルアップや関係機関との連携強化

### 重点施策 3 知の財産を活用し、県民の課題解決を支援する取組の充実

#### ④ 課題解決支援機能の充実

- ・社会情勢等に応じたテーマによる課題解決支援

## [R6(2024)評価指標]

- 1 地域資料蔵書数
- 2 レファレンス協同データベース (本県地域関係) 新規・更新事例登録数
- 3 「とちぎ」に関するテーマ展示回数
- 4 地域資料貸出点数
- 5 地域資料に係るレファレンス件数

- 1 相互貸借点数(当館貸出シェア)
- 2 当館支援に係る市町立図書館等満足度
- 3 市町立図書館等協力レファレンス件数
- 4 総合目録検索件数
- 5 図書館職員対象研修会参加人数
- 6 図書館職員対象研修会参加者満足度

- 7 子どもの読書ボランティア指導者派遣依頼者満足度
- 8 児童サービス研修会参加者満足度
- 9 児童サービス研修会参加者人数

- 1 パスファインダー作成点数及び配布点数
- 2 テーマによる展示実施回数
- 3 利用者満足度(資料・情報の入手)
- 4 レファレンス件数
- 5 HPトップページアクセス件数
- 6 県立図書館蔵書検索条件数
- 7 県内図書館横断検索条件数 (総合目録検索条件の再掲)
- 8 身体障害者への資料郵送貸出点数

## 5 評価

### 目指すべき姿[1] “とちぎ”のことなら何でもわかる図書館

#### 重点施策 1 知の財産を守り育み、発信する取組の充実

栃木県に関する資料の網羅的な収集と保存を行い、「栃木県に関わる情報の総合窓口」として、地域資料・情報の保存及び発信を行う。

#### ① 地域資料情報センター機能の充実

##### 【令和 6 (2024) 年度の具体的な取組】

- ・ 出版情報や古書目録、新聞、雑誌、インターネット等、多様な媒体を通じて地域資料の出版情報を収集し、蔵書の更なる充実を図った。
- ・ 本県出身や在住等のゆかり作家による作品、本県を舞台とする文学作品等について、積極的に収集した。
- ・ デジタルアーカイブ「栃木県立図書館デジタルコレクション」に電子行政資料や貴重書のデジタル化資料を追加し、コンテンツの充実を図った。
- ・ 特別コレクション「神長瞭月文庫」や栃木県の教育に関する資料について、原資料の保存と利便性の向上の観点からデジタル化を進めた。
- ・ 資料保存のため、地域情報誌・文芸誌等の地域逐次刊行物の合冊製本を進めた。
- ・ 文書館、美術館、博物館等に対して、企画展のための資料の特別貸出等を行うとともに、地域資料室内に各館の企画展と連携した展示コーナーを設置し、情報発信を行った。
- ・ とちぎに関する調査依頼に丁寧に対応するとともに、国立国会図書館が運営する「レファレンス協同データベース」へ積極的に事例を登録し、利用者の調査支援に努めた。
- ・ 図書館だよりやホームページ、研修等のさまざまな機会を捉えて、地域資料室やレファレンスサービスの周知を図った。

##### 評価指標 1-1

##### 地域資料蔵書数【地域資料の充実度を示す】

基準値	区分	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)
97,951 点 (R4 実績)	目標	98,700 点	100,500 点	102,300 点
	実績	99,824 点	101,530 点	
	達成率	101%	101%	
	評価	A	A	

**評価指標 1-2**

**レファレンス協同データベース\*1 本県地域関係新規・継続事例登録数**

【栃木県に関する調査研究への支援成果及びその全国への情報発信を示す】

基準値	区分	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)
60点 (R4実績)	目標	60点	60点	60点
	実績	60点	30点	/
	達成率	100.0%	50%	
	評価	A	D	

\*1 レファレンス協同データベース

国立国会図書館が全国の図書館等と協同で構築している調査用データベース。レファレンス事例、調べ方マニュアル、特別コレクション及び参加館プロフィールに係るデータを蓄積し、インターネットを通じて提供することで調査研究活動を支援することを目的とする。

**評価指標 1-3**

**「とちぎ」に関するテーマ展示回数【地域資料の充実度を示す】**

基準値	区分	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)
19回 (R4実績)	目標	12回	20回	20回
	実績	44回	55回	/
	達成率	367%	275%	
	評価	A	A	

**評価指標 1-4**

**地域資料貸出点数【栃木県に関する調査研究への支援状況を示す】**

基準値	区分	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)
2,107点 (R4実績)	目標	2,100点	2,100点	2,100点
	実績	1,882点	1,842点	/
	達成率	90%	88%	
	評価	B	B	

## 評価指標 1-5

### 地域資料に係るレファレンス件数【栃木県に関する調査研究への支援状況を示す】

基準値	区分	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)
2,776 件 (R4 実績)	目標	2,250 件	2,300 件	2,300 件
	実績	2,527 件	2,395 件	/
	達成率	112%	104%	
	評価	A	A	

### 【自己評価・分析】

- ・ 県庁内や学校図書館からの寄贈・移管の照会が増加しており、地域資料の保存施設として認知が進んだものと思われる。
- ・ 県の電子行政資料については、平成 30(2018)年度から収集を開始しており、ペーパーレス化の推進とともに発行件数が増加の一途をたどっている。県庁内への照会方法等を適宜見直すことで、安定的な収集・管理ができています。
- ・ 長年収集してきた地域情報誌や文芸誌 223 タイトル等約 20 万冊について、製本委託の費用を確保できたことから、整理、選別し 1,060 冊分に製本することができた。県立図書館ならではの貴重なコレクションの一端として次世代に伝えていきたい。
- ・ 文書館、美術館、博物館との連携展示に加え、県民の日関連展示「海なし県のおさかな天国」などの展示を行い、本県の魅力発信と利用者の興味感心の喚起につなげることができた。
- ・ 「レファレンス協同データベース」への継続的な事例登録は 1,100 件を超え、とちぎに関する情報の調査支援の強化につながっている。また、当館は本事業への協力が評価され、15 年連続で国立国会図書館長から感謝状を授与されている。しかしながら、今年度は目標を大きく下回ってしまったため、目標達成に向け事例作成を引き続き行う必要がある。

### 【図書館協議会委員からの意見】

(評価指標 1-3)

- ・ 美術館等との連携展示について、美術館の一角に図書展示コーナーを作って展示してもらうなど一歩進んだ連携を行うのはどうか。図書館が外に出て行くと良い。

### 【今後の方向性及び次年度の方針】

- ・ 地域資料の充実に向けて、個人や学校、企業等が所有する地域資料の発掘に努めるとともに、寄贈依頼を継続して行う。
- ・ 県民の貴重な財産である地域資料の収集、保存に充分配慮しながら関連展示等を通じて地域資料の利用促進を図るとともに、本県の魅力発信につながる展示や県庁各課との連携展示に積極的に取り組む。
- ・ 電子行政資料の継続的な収集、保存及びホームページ上での公開に努め、県民への提供はもとより行政機関等での資料活用の推進を図る。
- ・ デジタル化資料のうち、著作権等の要件を満たした資料を順次「栃木県立図書館デジタルコレクション」内で公開する。
- ・ 「レファレンス協同データベース」への地域事例等の登録に継続的に取り組み、地域資料やレファレンスの周知を図るとともに、地域に関する様々な情報の調べ方を更に周知する。また、行政職員の業務を支援するため、県庁内へレファレンスサービスの周知を進める。

## 目指すべき姿[2] 県内図書館をリードする中核的図書館

### 重点施策2 図書館と人と情報をつなぎ、県民ニーズに対応したサービスを展開

図書館と図書館、人と情報をつなぐ県内の中核的図書館として、図書館ネットワークを強化すると共に、市町立図書館等の支援を行い、県全体の図書館振興を図る。

## ② 市町立図書館等支援機能の充実

### 【令和6(2024)年度の具体的な取組】

- ・ 図書館協力ネットワーク会議や満足度調査、巡回相談等で市町立図書館等の要望や意見を聴取し、資料相互貸借制度や栃木県図書館総合目録の円滑な運用をはじめとした市町立図書館等との連携協力体制の強化に努めた。
- ・ 郵送や宅配便等を利用した大学等図書館との相互貸借のうち、作新学院大学・作新学院女子短期大学部図書館については、協力車で巡回、集配を行うこととし、大学側の負担軽減を行い利便性を向上させた。
- ・ 巡回相談については、実施方法を訪問・オンライン・書面の選択とし、市町立図書館職員が参加しやすい環境を整えた。
- ・ 市町立図書館等職員を対象とした研修については、講話中心の研修についてオンライン開催とし、後日、研修の様子を動画配信することで、業務の都合等に配慮した参加しやすい研修とした。また、演習やグループワーク等を伴う研修については集合型とし、研修の質の向上にも努めた。出張研修や研修の内容については、各図書館等からの研修依頼に積極的に対応した。
- ・ 「栃木県読書活動推進計画」に基づき、新たに「障害者サービス研修会」を開催した。今年度は学校図書館関係者も受講対象とした。
- ・ 様々な機会をとらえて相互貸借制度のPRに努めた。

### 評価指標 2-1

相互貸借当館貸出分シェア【資料の利用提供における市町立図書館への支援状況を示す】

基準値	区分	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)
20.7% (R4実績)	目標	総件数の 20%以上	総件数の 20%以上	総件数の 20%以上
	実績	18.7%	19.4%	/
	達成率	94%	97%	
	評価	B	B	

### 評価指標 2-2

市町立図書館等支援満足度(県内図書館に対する調査)【当館の支援に対する満足度を示す】

基準値	区分	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)
4.3 (R4実績)	目標	4.2以上	4.2以上	4.2以上
	実績	4.2	4.1	/
	達成率	100%	98%	
	評価	A	B	

### 評価指標 2-3

#### 市町立図書館等協力レファレンス件数

【資料の利用提供における市町立図書館への支援状況を示す】

基準値	区分	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)
99 件 (R4 実績)	目標	90 件	90 件	45 件
	実績	89 件	48 件	/
	達成率	99%	53%	
	評価	B	D	

### 評価指標 2-4

#### 栃木県内図書館横断検索ホームページアクセス件数<sup>\*2</sup>

【中核図書館としての機能の充実度を示す】

基準値	区分	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)
153,276 件 (新規) (R5.6月～12月 実績の 12/7)	目標	—	160,000 件	160,000 件
	実績	158,481 件	152,727 件	/
	達成率	—	95%	
	評価	—	B	

<sup>\*2</sup> Web アクセス計測ツール「GoogleAnalytics4」による「栃木県内図書館横断検索」ホームページの「エンゲージメント数」（当該ページ内においてユーザーがクリック・スクロール等の何らかのアクションを行った数）

### 評価指標 2-5

#### 図書館職員対象研修会参加人数【研修における市町立図書館等への支援状況を示す】

基準値	区分	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)
384 名 (R4 実績)	目標	350 名	350 名	350 名
	実績	301 名	355 名	/
	達成率	86%	101%	
	評価	B	A	

### 評価指標 2-6

#### 図書館職員対象研修満足度【当館の支援に対する満足度を示す】

基準値	区分	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)
4.2 (R4 実績) (5段階評価)	目標	4.0 以上	4.0 以上	4.0 以上
	実績	4.0	4.3	/
	達成率	100%	108%	
	評価	A	A	

### 【自己評価・分析】

- ・ 県内図書館間相互貸借業務に関して、令和2（2020）年度に運用の見直しを行い、搬送回数を減らし、一部図書館について協力車から宅配に搬送手段を切り替えた。市町立図書館等からは、協力車搬送回数の増便や搬送手段を協力車へ戻すよう要望が寄せられているが、予算等の面で応えられていない状況が続いている。
- ・ 市町立図書館等職員を対象とした研修については、新たに「障害者サービス研修会」を開催し、学校図書館関係者も受講対象としたことにより、研修会参加人数が増加した。また、市町立図書館等をめぐる動向やニーズを考慮しながら研修を企画し、高い満足度を得ることができた。
- ・ 協力レファレンスの件数については、市町立図書館における必要性により増減する傾向がある。

### 【図書館協議会委員からの意見】

（相互貸借について）

- ・ 県立でない所蔵しない資料、県立だからこそ所蔵している資料を、相互貸借で借りられるのはありがたい。貴重な資料が多いので、県内各地で相互貸借し有効利用してほしい。相互貸借で大学の専門性を生かした資料を借りられるのもありがたい。

（評価指標2-3のD評価について）

- ・ 受け身の指標は難しい。指標そのものを見直し、図書館側の努力により改善できる指標にした方が良くはないか。依頼件数のような受け身の指標で、依頼が少なくて評価が下がるのは違うのではないか。例えば、来た依頼に対してどのくらい対応できたかなどの指標としてはどうか。
- ・ 利用者へのレファレンスサービスの周知も必要だが、インターネットが普及し、自力で調べる力がついてきた可能性もある。市町立図書館でのレファレンス数も減少傾向にある。

### 【今後の方向性及び次年度の方針】

- ・ 資料相互貸借制度や栃木県図書館総合目録の円滑な運用に努め、市町立図書館等との連携強化を図る。
- ・ 協力レファレンスサービス等の市町立図書館等への支援業務をきめ細かく展開し、県全体の図書館サービスの向上を図る。
- ・ 市町立図書館等に対する職員研修は、オンラインのビデオ会議ツール等を活用し、多くの職員が受講しやすい環境を整えるとともに、内容の充実に努める。
- ・ 協力レファレンスについては、研修等の機会を活用し市町立図書館等職員へ案内する等、引き続き周知に努めていく。

## ③ 読書活動支援機能の充実

### 【令和6（2024）年度具体的な取組】

- ・ 子どもの読書活動の推進や研究活動に役立つ資料を積極的に購入し、子どもの読書活動に係る支援機能の充実を図った。
- ・ 関係団体が主催する講座への協力及び連携展示を積極的に行い、子どもの読書活動関係者の利用促進に努めた。
- ・ 子どもの読書ボランティア指導者事業を円滑に運用するとともに、指導者のスキルアップ研修の一部を公開講座とし、広く関係者へ受講機会を提供した。
- ・ 生涯学習課が主催する「高校生読書活動推進事業」に参画し、読書コンシェルジュ育成研修における講師やアドバイザーとして活動を支援した。
- ・ 県高等学校教育研究会図書館部会や宇都宮大学附属特別支援学校等からの依頼に応じて、教職員及び生徒を対象にパスファインダーに関する研修や司書体験講座を開催した。
- ・ 県立学校等からの求めに応じ、授業支援のための図書セットの作成・貸出を行った。

**評価指標 2-7****子どもの読書ボランティア指導者派遣依頼者満足度【読書ボランティア支援の満足度を示す】**

基準値	区分	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)
5.0 (R4 実績) (5段階評価)	目標	4.1 以上	4.1 以上	4.1 以上
	実績	5.0	5.0	/
	達成率	122%	122%	
	評価	A	A	

**評価指標 2-8****児童サービス研修会参加者満足度【当館の支援に対する満足度を示す】**

基準値	区分	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)
4.6 (R4 実績) (5段階評価)	目標	4.1 以上	4.1 以上	4.1 以上
	実績	4.9	4.9	/
	達成率	120%	120%	
	評価	A	A	

**評価指標 2-9****児童サービス研修会参加人数【子どもの読書活動支援の充実度を示す】**

基準値	区分	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)
42 名 (R4 実績)	目標	30 名	30 名	30 名
	実績	40 名	25 名	/
	達成率	133%	83%	
	評価	A	B	

## 【自己評価・分析】

- ・ 読書活動支援室内では、関係団体の主催講座と連携した展示や著名な絵本作家の追悼展示など、様々な角度から資料を紹介し、同室の利用促進を図った。
- ・ 読書活動支援室内の外国語絵本を、検索しやすく整理を進めたことで、外国語絵本の貸出増につながった。
- ・ 子どもの読書ボランティア指導者スキルアップ研修は、公開講座への一般県民のニーズも高く、好評を得ている。一方で、登録指導者の減少や後進の育成に向けた研修内容の精査等の課題もあり、事業全体のあり方について検討が必要となっている。
- ・ 子どもの読書ボランティア指導者の派遣事業については依頼者から高い評価を得ており、引き続き指導者のスキルアップ等の支援に努めたい。
- ・ 読書コンシェルジュ関連事業については、当館職員が研修講師等として積極的に参画し、高校生熱心な活動につなげることができた。
- ・ 学校支援について、授業支援用の図書セット貸出の周知が進み、新たな学校からの依頼につながった。
- ・ 児童サービス研修会は、初任者向け演習を会場参集で開催する形としたため、例年より参加者減となったが、初任の担当者には必須の内容であり、ニーズがある職員の受講につながったと思われる。

## 【図書館協議会委員からの意見】

(学校支援について)

- ・ 小中学校では学校司書がない学校、学校図書館が閉まったままの学校もある。県立として、県の立場から言えることも多くあると思うので、自治体により教育格差がないようにフォローしていただけるとありがたい。
- ・ 県立図書館の学校支援に関する情報について、メール等を活用し県内の全校に届くよう心掛けてほしい。若い利用者層の増加にもつながるのではないかな。
- ・ 学校ボランティアの充実が必要である。

(若者の読書活動の推進について)

- ・ 今の若い人は忙しく、純粋な楽しみのための読書をしない。読書や図書館の活用の最初のきっかけとして、入試や就活など、若い人に身近でメリットがある企画展示等で読書が自分の役に立つと思えるきっかけを示すと良いのではないかな。

## 【今後の方向性及び次年度の方針】

- ・ 県内の子どもの読書活動の推進に向けて、引き続き読書活動支援室の充実及びホームページ等による広報、指導者派遣事業の活性化等に努める。
- ・ 子どもの読書ボランティア指導者事業については、今後のあり方等について検討を行う。
- ・ 各種研修事業については、子どもの読書活動をめぐる情勢や参加対象者のニーズに沿った内容となるよう精査に努める。
- ・ 生涯学習課主催の「高校生読書活動推進事業」に積極的に協力し、読書コンシェルジュの育成や活動支援に取り組むとともに、生徒の活動場所としての当館利用及び主催事業の活用にも積極的に取り組む。
- ・ 県内高等学校等との連携を深め、研修依頼や図書セット貸出依頼等に積極的に対応する。

## 目指すべき姿[3] 県民の課題解決のための図書館

### 重点施策3 知の財産を活用し、県民の課題解決を支援する取組の充実

県立図書館の豊富な蔵書を生かし、社会情勢等に合わせた情報提供を行い、県民の課題解決支援を図る。

#### ④ 課題解決支援機能の充実

##### 【令和6(2024)年度の具体的な取組】

- ・ 県民の課題解決支援のため、図書館資料の充実や契約オンラインデータベースの積極的な活用、様々な関係機関との連携に努めた。
- ・ 「法律情報」「地域福祉情報」を重点テーマとして生活に身近な関連知識を得るための資料の充実に取り組むほか、時節にあったテーマ展示を実施し、情報提供を行った。
- ・ 県庁内や関係機関と連携し、ロビーでの連携展示や出張展示、ブックリストの提供などに取り組む、当館及び所蔵資料の周知に努めた。
- ・ 企画展示については、栃木県の魅力発信につながるテーマ展示や関係各所との連携展示、文学賞に関する展示などを行い、利用者の知的関心の喚起と当館所蔵資料の紹介に取り組んだ。
- ・ ホームページやSNSを活用して積極的な情報提供を行った。
- ・ 郵送によるコピーサービス等の非来館型サービスを提供した。

##### 評価指標 3-1

##### パスファインダー<sup>\*3</sup>作成点数及び配布点数

【課題解決のためのツールの提供状況を示す】※( )は配布点数

基準値	区分	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)
10点 (R5見込)  (600点) (過去3年実績の平均)	目標	14点 (一点)	10点 (600点)	10点 (600点)
	実績	10点 (一点)	10点 (954点)	/
	達成率	71%	100%	
	評価	C	A	

\*3 パスファインダー: 特定のテーマに関する文献、情報の探し方・調べ方の案内

##### 評価指標 3-2

テーマによる展示実施回数【社会情勢等に合わせた展示による情報提供の充実度を示す】

基準値	区分	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)
43回 (R4実績)	目標	35回	40回	40回
	実績	64回	77回	/
	達成率	183%	193%	
	評価	A	A	

**評価指標 3-3**

**利用者満足度(目的の資料・情報が入手できたか)【図書館利用の満足度を示す】**

基準値	区分	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)
4.2 (R4 実績) (5段階評価)	目標	4.2 以上	4.2 以上	4.2 以上
	実績	4.4	4.3	/
	達成率	105%	102%	
	評価	A	A	

**評価指標 3-4**

**レファレンス件数【調査研究への支援状況を示す】**

基準値	区分	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)
8,186 件 (R4 実績)	目標	7,800 件	7,400 件	7,400 件
	実績	7,551 件	7,333 件	/
	達成率	97%	99%	
	評価	B	B	

**評価指標 3-5**

**県立図書館ホームページトップページアクセス数<sup>\*3</sup>**

**【非来館型情報提供サービスの充実度を示す】**

基準値	区分	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)
294,907 件 (新規) (R5.6月～12月 実績の12/7)	目標	—	310,000 件	310,000 件
	実績	265,747 件	269,292 件	/
	達成率	—	87%	
	評価	—	B	

\*3 Web アクセス計測ツール「GoogleAnalytics4」による栃木県立図書館ホームページのトップページにおける「エンゲージメント数」(当該ページ内においてユーザーがクリック・スクロール等の何らかのアクションを行った数)をアクセス数とする。

**評価指標 3-6**

**県立図書館蔵書検索件数【非来館型情報提供サービスの充実度を示す】**

基準値	区分	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)
1,841,397 件 (R4 実績)	目標	700,000 件	1,700,000 件	1,700,000 件
	実績	1,804,081 件	3,758,757 件	
	達成率	258%	221%	
	評価	A	A	

**評価指標 3-7 (評価指標 2-4 再掲)**

**栃木県内図書館横断検索ホームページアクセス件数<sup>\*4</sup>**

**【中核図書館としての機能の充実度を示す】**

基準値	区分	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)
153,276 件 (新規) (R5.6月～12月 実績の12/7)	目標	—	160,000 件	160,000 件
	実績	158,481 件	152,727 件	
	達成率	—	95%	
	評価	—	B	

**評価指標 3-8**

**身体障害者への資料郵送貸出点数【ハンディキャップサービスの充実度を示す】**

基準値	区分	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)
125 点 (R4 実績)	目標	250 点	125 点	125 点
	実績	113 点	143 点	
	達成率	45%	114%	
	評価	C	A	

## 【自己評価・分析】

- ・ パスファインダーは例年より多く配布され、利用者の自発的な調査の一助となったと考える。配布枚数の傾向から、今後の新規発行や改訂を計画し、更なる利便性の向上に努めていきたい。
- ・ 文書館、美術館、博物館や県庁各課、JICA 栃木デスクなど、様々な関係機関と連携した展示を行い、多様な角度からの所蔵資料の紹介につなげることができた。
- ・ 蔵書検索性は検索エンジンを利用したキーワード一括検索で激増している一方で、ホームページのトップページへのアクセスは減少傾向にある。ホームページのアクセシビリティやコンテンツ等の改善を図り、魅力ある情報発信に努める必要がある。
- ・ 身体障害者への資料郵送貸出については、登録利用者の高齢化等により利用が減少傾向にある。本サービスの登録には、手帳の所持を要件としているため、本サービスの更なる周知に加えて、本サービスの利用対象外となる障害者等へのサービス展開について検討している。

## 【図書館協議会委員からの意見】

(情報発信全般について)

- ・ ホームページを見ない人にも届くようなPRが必要だと思う。興味のない人にどうやって図書館を知ってもらえるか、生活の中に図書館が位置付けられていない家庭にどう入り込んでいくかを考えてほしい。

(情報発信について)

- ・ パスファインダーやブックリストについて、色々な切り口やタイムリーな情報など今知りたいテーマで多く作っていただきありがたい。

(企画展示について)

- ・ 若者の読書離れが進み、高校の図書室も貸出減、読書感想文の応募数も激減している一方、全国高校ビブリオバトル決勝大会で優勝した子もおり、今も本好きの子どもは一定数いる。もっと柔らかい、若い世代を引きつけるような展示をしてはどうか。

(ホームページについて)

- ・ ホームページでの情報発信について、例えば高校生とコラボして、高校生が自由な発想で作れる部分を設けると面白いのではないかと。高校生の利用増にもつながり、若い人に積極的に関わってもらえるチャンスとなる。

## 【今後の方向性及び次年度の方針】

- ・ パスファインダーの配布点数の傾向を踏まえ、今後は地域に関する需要の高いテーマを扱い、利用者のニーズをより満たすものを目指す。また、既存のパスファインダーについても、情報の更新・追加等を行い、より充実した情報提供を目指す。
- ・ 様々な関係機関と連携した展示や時節に応じた旬なテーマの展示を企画し、図書館利用や読書への興味・関心の喚起に努めるとともに、当館所蔵資料のPRを行う。
- ・ ホームページやSNS等の更なる充実や活用により、非来館型サービスの充実を図る。
- ・ 利用者アンケートの意見を積極的に反映し、サービスを展開する。
- ・ 障害者、高齢者、外国人等、図書館利用に障害がある様々な方にも配慮し、資料の収集やサービス提供に努めるとともに、関係機関と連携し、資料等がより利用しやすい環境の充実を図る。